

第56回 記者懇談会実施概要

1 日 時 2009年2月24日(火) 15時～

2 場 所 100周年記念会館 第2会議室

3 内 容

(1) 研究発表・質疑応答 (15:00～16:00)

・富田^{とみた}知嗣^{きとし} 大学院会計研究科准教授

発表テーマ「会計から見た投資家の行動－会計心理学への模索－」

・岡田^{おかだ}芳樹^{よしき} 環境都市工学部教授

発表テーマ「ナノ粒子材料が持つ問題点とその解決法」

(2) 学内状況説明・情報交換 (16:00～17:00)

- ① 2009年度入学試験合格者および志願者状況について [資料1](#)
- ② 関西大学私費外国人留学生緊急支援金の支給および寄付金募集について [資料2](#)
- ③ 2008年度卒業式および大学院学位記授与式の挙行について [資料3](#)
- ④ 関西大学博物館および高松塚古墳壁画再現展示室の「大阪ミュージアム」への登録について [資料4](#)
- ⑤ 専門職大学院等における高度専門職養成教育推進プログラム「法実務教育用ビデオ」完成披露試写会の開催について [資料5](#)
- ⑥ アイススケート部織田信成君の2009世界フィギュアスケート選手権出場決定に伴う壮行会の開催について [資料6](#)
- ⑦ 関大生の活躍について [資料7](#)

4 大学側出席者

河田悌一学長、芝井敬司副学長、良永康平学長補佐、
富田知嗣大学院会計研究科准教授、岡田芳樹環境都市工学部教授、
山本秀樹入試センター所長、栗原宏武大学院法務研究科教授、
松並久典入試センター次長、熊博毅学術センター次長、
高橋真澄国際センター事務長、花谷いしづ学生生活課長、清水啓記（法学部3年次生）
川原哲夫学長課長、藤本清高広報室長、木田勝也広報課長 他

5 参考資料

- (1) 学長メッセージ
- (2) 現代GP「実践的総合キャリア教育の推進」シンポジウム チラシ
- (3) 関西大学マイノリティ研究センター ニュースレター

以 上

会計から見た投資家の行動

—会計心理学への模索—

会計研究科准教授 富田知嗣

【概要】

1. 証券市場は合理的で賢明なのか？

証券市場に合理的経済人（必要な情報を集め、瞬時に正確に分析・解釈し、冷静に最低限のコストで自らの効用を最大化する人）だけが、存在すれば、証券市場は効率的・合理的・賢明である。そして、株価は企業価値も正しく反映する。しかし、かならずしも、そうではない。

2. 個人投資家の行動パターン

教科書的には、投資家は投資対象のリスクとリターンによって、投資意思決定をし、それぞれのリスク許容度に応じて、投資行動をする。ところが、投資金額あるいはリターンの金額によってリスク許容度は異なり、得られる情報によっても行動は変わる。よって、株価は乱高下する。

3. 証券市場における情報移転

情報には、入手の難易度だけでなく、理解の難易度もある。情報を持っていない者は情報そのものを、理解できない者は解釈情報を入手するしかない。情報移転の円滑さが、証券市場の状態を決定する。会計情報は、本当は難解であるが、入手が容易で、なんとなく理解される情報である。

4. 個人投資家の利用する情報

食事の場所やメニュー、商品の購入、株式への投資など、私たちは常に意思決定をしている。このときに、様々な情報を収集するが、その量は制約時間に依存する。また、その情報への重要度も決定している。個人投資家は、どのような情報を見、どのような情報を重要だと思っているのか？

5. 会計はどんな情報なのか？

会計情報は、一般に企業の写像と説明されることが多いが、そこまで情報は多くない。日向の陰のような程度の情報である。また同時に、個人投資家にとっては、一般の商品カタログにあるスペック表のような情報であり、そのような役割を演じている。

6. 会計は家計管理につかえるのか？

会計は、企業だけのものではない。長い歴史の中で培われたノウハウは、どこに対してもそれなりに役立つ。私たちの生活にも本当は使えるはずである。従来の家計簿を捨てて、会計のノウハウを詰めた家計簿による家計管理が、我々の生活に潤いと緊張をもたらす。

【プロフィール】

1966年、名古屋に生まれる。名古屋市立大学経済学部卒業後、名古屋市立大学大学院経済学研究科経済政策専攻・博士後期課程単位取得満期退学。名城大学都市情報学部、大阪経済大学経営情報学部、関西大学商学部を経て、2006年4月より現職。博士（商学）（関西大学）。1994年、公認会計士登録。著書は『利益平準化のメカニズム』（単著）、『あなたの会社の偏差値診断』（共著）、『倒産指数』（分担執筆）、『会計専門職のための基礎講座』（分担執筆）など。趣味は写真。特技は箏（師範）。

ナノ粒子材料が持つ問題点とその解決法

環境都市工学部教授 岡田芳樹

【概要】

ナノ粒子はその優れた性質から各種分野で利用、研究されている。それは、現在および将来に渡って非常に重要な材料であり、材料部品産業、電子電気産業、通信産業、情報機器産業、化成品・医薬品産業、住宅・化粧品などの生活関連産業などの産業分野、また、化学、物理、生物などの幅広い研究分野に関係している。そして、従来の材料・部品・機器などの産業構造が融合した新しい産業分野の創成につながる可能性を持っている。

このナノ粒子に関して、次の2つの事項を現状の問題点として挙げなければならない。1つ目はナノ粒子の凝集化、2つ目は健康被害の懸念である。

ナノ粒子はそのサイズがナノメートル領域であることにより、量子サイズ効果などの大きなサイズにはない特別な性質を持つ。ナノ粒子が凝集してしまうと、その特質が無くなる。しかし、高純度のナノ粒子を製造する気相合成法では、ナノ粒子どうしが凝集した形態でしか作ることができず、ナノ粒子の特質が十分に発揮されない。そこで、私の研究室では、非凝集状態のナノ粒子を高効率に製造する技術を開発した。この技術を利用すれば、ナノの特性を活かした高純度ナノ粒子材料を効率よく工業的に量産できることになる。

ナノ粒子には健康被害をもたらす可能性がある点から、ナノ粒子の製造現場においてその管理の困難さなどの社会的問題が生じている。また、半導体粒子汚染の問題や、自動車排出ナノ粒子による健康被害の問題などから、ナノ粒子の持つ毒性や特性を粒子サイズとその化学組成の両面で評価しなければならなくなっている。したがって、気相に浮遊するナノ粒子の粒径ごとの化学組成をその場で迅速に計測する技術の開発が急務とされている。そこで、研究室では、ナノ粒子のサイズ分布と化学組成を同時にオンラインで測る技術を開発した。これにより、製造現場でのナノ粒子の管理、半導体製造現場での回路基板の製造歩留まり向上、ナノ粒子フリーのエンジン開発、自動車の車両検査などの分野で活用されることが期待される。

【プロフィール】

1958年大阪府豊中市生まれ。京都大学工学部化学工学科を卒業。1988年京都大学博士課程を修了後、理化学研究所に勤務。2005年4月より現職。工学博士。

現在の研究領域は、ナノ粒子の合成、ナノ粒子の計測、マイクロリアクターの反応制御、マイクロバブルを利用した水質浄化など。